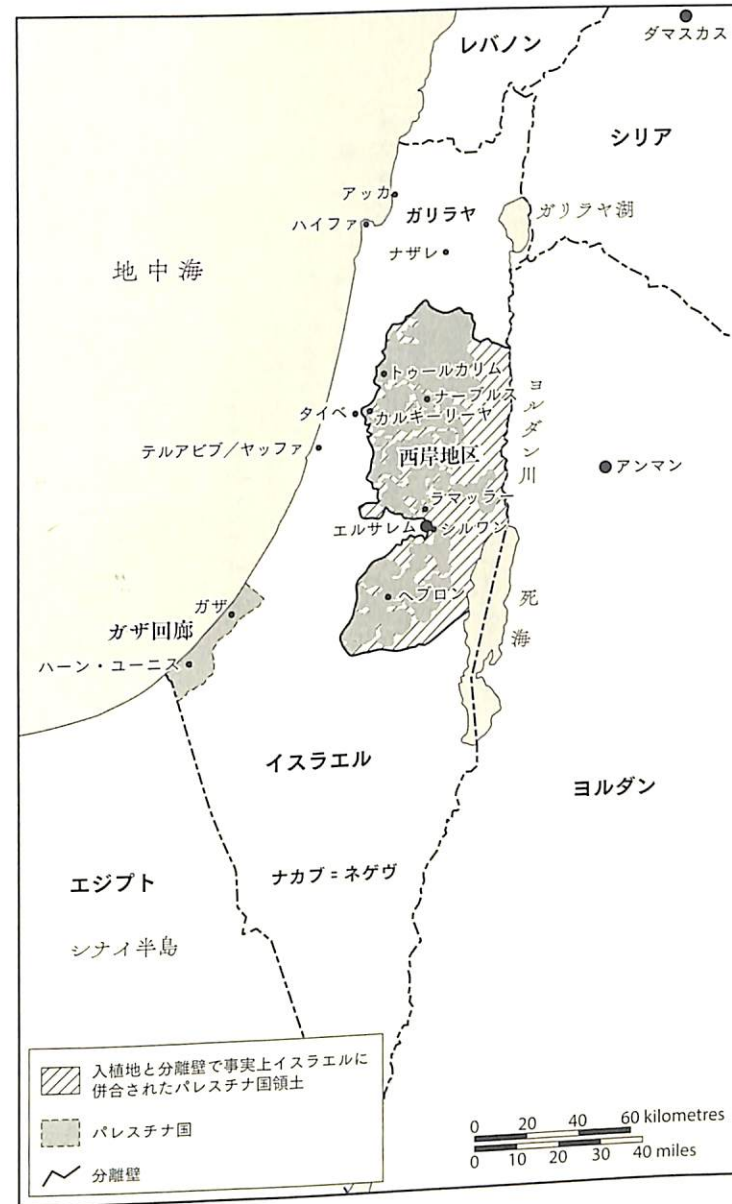


序

あらゆる紛争の根底には歴史がある。その歴史を偏ることなく正確に理解することで紛争解決の可能性が見出せる。しかし歴史を歪曲・操作すると、災いの種を撒くだけである。イスラエル・パレスチナ紛争の場合、歴史、それも誰もが知っている直近の歴史までも故意に歪めて、途方もなく大きな危害を引き起こしている。この意図的な歴史の曲解が抑圧を強化し、植民・占領政権を擁護しているのだ。だから、偽情報を流して事実を捻じ曲げる政策が昔から現在まで続いているために紛争が永続化し、未来への希望が奪われているのは、驚くには当たらない。イスラエル・パレスチナの過去と現在に関するでたらめな嘘が作り出されて、紛争の起源地を見えなくしている。その一方で、関連事実を絶えず政治的に操作し、現在続いている流血の暴力の犠牲者を逆に加害者として鞭打つ作用が働いている。この逆立ちした状態に対していったいどうすればよいのだろうか。



西岸地区のイスラエル入植地

sapientia 55
サピエンティア

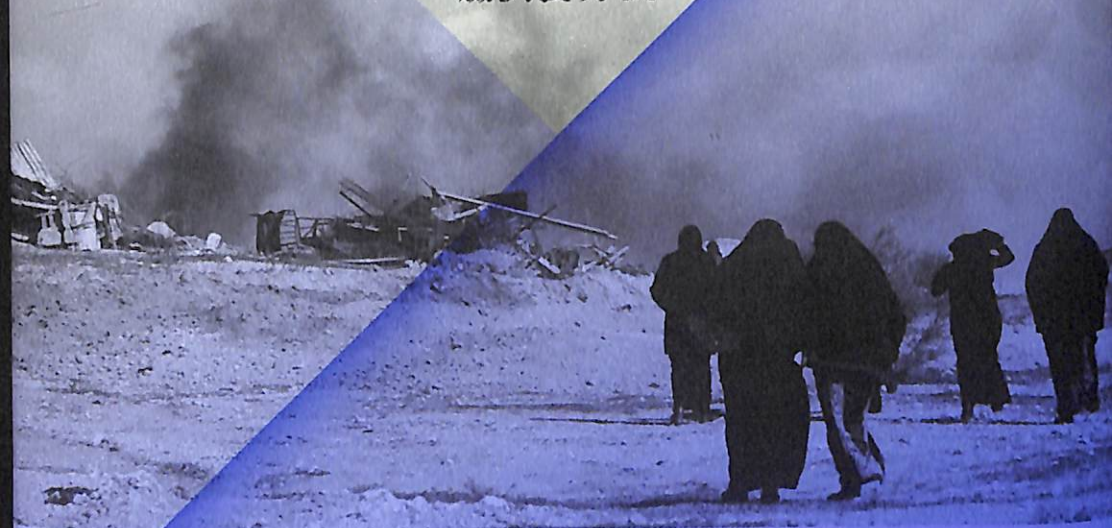
Ten Myths About Israel

イスラエルに関する 十の神話

Han Pappe

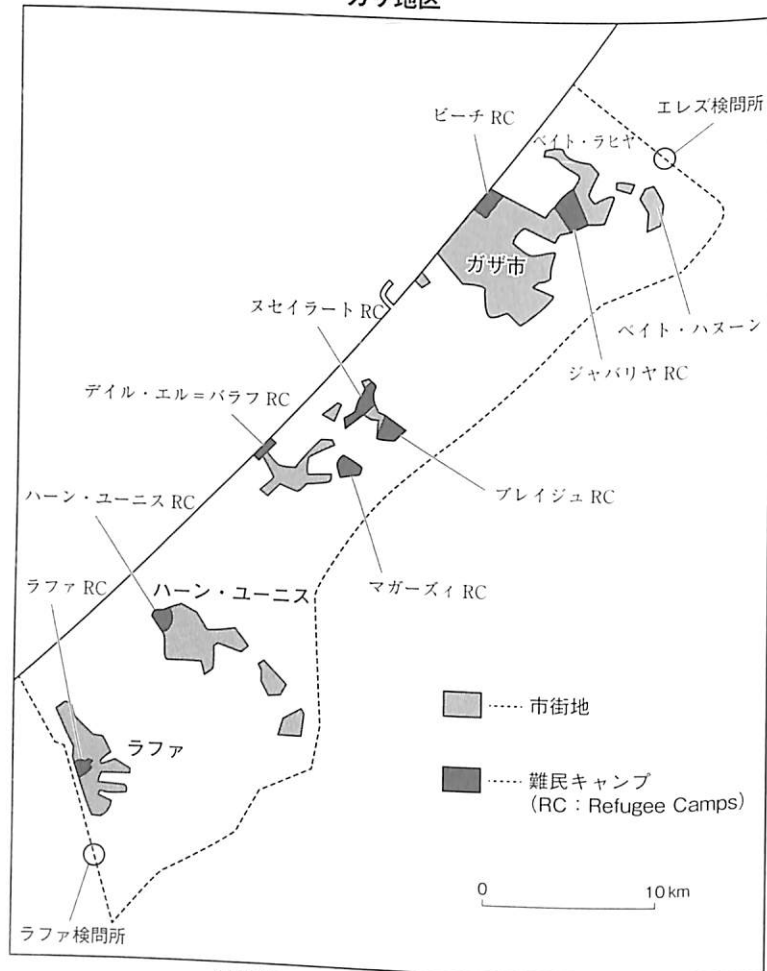
イラン・パペ [著]

脇浜義明 [訳]



法政大学出版局

ガザ地区

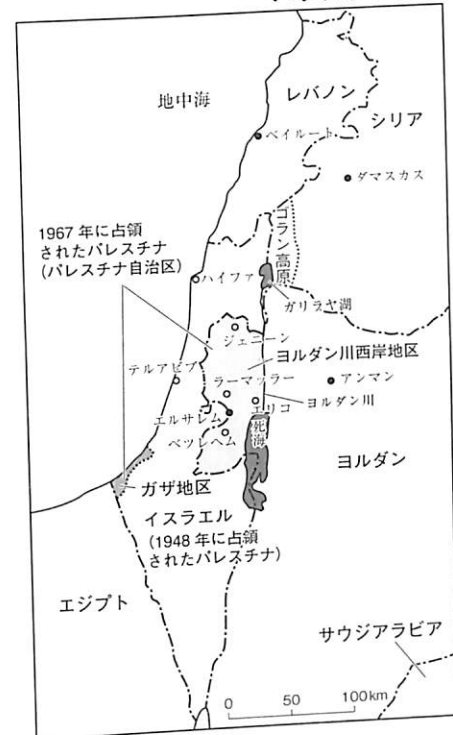


(「ガザ通信」をもとに作成。地図は 2000 年時点。©Jan de Jong)



イスラエル、パレスチナ

パレスチナ全図



ガザとは

何か



パレスチナ問題は
決して
“難しく”ない

早稲田大学(10/23)、
京都大学(10/20)の
講義に加筆・収録
「まずここから」の一冊

パレスチナを

知るための緊急講義

早稲田大学教授
岡 真理

今
起きて
いる
こと
の

歴史的
文脈と

ポイント

が
わ
か
る

緊急
出版!

大和書房